

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

東アジアの古代都市と国家形成

2. 主宰責任者氏名

主催責任者：山本 堯（泉屋博古館・学芸員）

所内世話役：向井 佑介（人文科学研究所准教授）

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）

2019年5月24日（金）

午前10時～12時：泉屋博古館（青銅器の見学と意見交換）

午後14時～17時：人文研分館 大会議室

研究講演：「中国古都的恒与変」

講演者：許宏氏（中国社会科学院考古研究所・研究員）

4. 概要

許宏氏は、二里头遺跡の調査隊長として長年その発掘を率いてきた研究者である。今回の講演では、これまでの考古学的調査・研究成果をもとに、中国古代都邑と社会変化についての発展モデルを提示した。外郭城の有無に着目したそのモデルによると、最古の広域王権国家を生みだした二里头時代から漢代まではいわゆる“大都無城”の時代であり、宮城があっても外郭城は存在しなかった。それに対し、曹魏以降は都城に外郭城が加わって防御制が高まるとともに、都城全体を貫く明確な中軸線が出現し、儒教の観念と儀礼に対応して都城の空間構造が整備されていったという。このような講演内容をふまえて、参加者との間で活発な議論がなされた。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）

学外：12名

許宏（中国社会科学院考古研究所・研究員）、小南一郎（京都大学・名誉教授、泉屋博古館・名誉館長）、橋本裕行（奈良県立橿原考古学研究所・企画課長）、榎林啓介（愛媛大学・准教授）、丹羽崇史（奈良文化財研究所・主任研究員）、中村亜希子（奈良文化財研究所・客員研究員）、田中一輝（立命館大学・専門研究員）、山本堯（泉屋博古館・学芸員）、齊藤希（奈良県立橿原考古学研究所・調査課・技師）、黄盼（京都府立大学・学術研究員）、松本圭太（九州大学・専門研究員）、馬赤嬰（愛媛大学・大学院生）

学内：2名

馬渕一輝（文学研究科・博士課程）、坂川幸祐（文学研究科・博士課程／学振特別研究員 DC2）

所内：2名

岡村秀典、向井佑介

6. 助成金の使途等

旅費・謝金等は別経費から支出したため、助成金は使用していない（0円）

7. その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）

中国都城史の研究は、これまで考古学や文献史学を中心として、多くの成果が蓄積されてきた。日本では文献史学による都城プランの復元やその歴史的・思想的背景についてさかんに議論されているのに対し、近年の中国では考古学の発掘調査成果に立脚した都城空間の復元とその歴史の変遷に関する研究が目立っている。その一方で、先史時代から歴史時代までの都市・都城の形成と変遷を通時的に把握しようとした研究の多くは、時間の流れに沿った概説的な叙述にとどまってきたように思われる。そうしたなかで、許宏氏の研究は、都城プランの構造的変化に理論的枠組をあたえ、一貫した基準で先史時代から近世までの都城を整理しようとした点で、意欲的な試みということができ、参加した日本の研究者にとっても刺激的で有意義な研究集会になった。



参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	1	2 (0)	()	()	2 (0)	2 (0)	2 (0)	()	()	2 (0)	2 (0)
国立大学	2	3 (0)	()	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	()	2 (0)	1 (0)	1 (0)
公立大学	1	1 (1)	1 (1)	()	1 (1)	()	1 (1)	1 (1)	()	1 (1)	()
私立大学	1	1 (0)	()	1 (0)	()	()	1 (0)	()	1 (0)	()	()
大学共同利用機関法人	0	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関	2	4 (2)	()	1 (1)	1 (1)	()	4 (2)	()	1 (1)	1 (1)	()
民間機関	1	2 (0)	()	()	1 (0)	()	2 (0)	()	()	1 (0)	()
外国機関	1	1 (0)	1 (0)	()	()	()	1 (0)	1 (0)	()	()	()
その他	0	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
計	9	14 (3)	2 (1)	3 (1)	6 (2)	3 (0)	14 (3)	2 (1)	3 (1)	6 (2)	3 (0)

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人

